



じりつ「自律と自立」

指 宿 高 等 学 校
進路指導部 第 4 号
発行日 R 7. 11. 10 (月)

ヒツジで終わる習慣、ライオンに変わる決断。

千田琢哉・著 実務教育出版

以下、ゴシック体は原文のまま掲載。

上記は、本稿のもととなった本です。ヒツジとライオンは、次のことを象徴しています。

ヒツジとは、何かあるたびに群がって結局何も成し遂げられない人

ライオンとは、いたずらに群れず孤高に物事を成し遂げようとする人

どちらの道を選ぶか、すべてはあなた次第

ヒツジに縁のある身としては、ヒツジをマイナスの象徴にすることには反論したいのですが、ここでは本での定義に従います。



© フジテレビ

本の内容は、主に仕事の場面になっていますが、ここでは高校生の日頃の学習や受験に活かせるような独自の解釈を試みました。

ヒツジは始業時間ギリギリに駆け込んでくる。

ライオンは始業時間には悠然とコーヒーを飲んでいる。

朝の遅刻のことと安易にとらえず、受験に使える時間として考察します。テストに臨む際にギリギリにならないと全範囲の学習が終わっていない人と、必要な準備が余裕をもって終わっており、直前は最終確認をするだけになっている人との違いと解釈できます。

定期考査も同じです。「部活があって…」「ついスマホで…」は論外ですが、最大の落とし穴は「忘れないうちにテストを受けた方がいい」と直前でしか勉強しないことです。あるべきテストへの臨み方は、応用問題以外、特に暗記物は「忘れられない

状態」になってテストを受けることです。テストでの正解の中に、よくわかっていないが何となくできたという「不思議の勝ち(平戸藩主・松浦静山)」の経験はないでしょうか？ 選択問題では勘が当たただけすらあり得ます。これで喜ぶなら、学力が付かないルートをまっしぐらです。考査前には、不安はあっても(ない人は極少数派)、やるべきことはやったと思える状態になっていますか？

ヒツジは世間に認められることを優先して人生を創る。

ライオンはついやってしまっていることで人生を創る。

将来の進路を「わかりません」という人がいますが、自分の価値観(好み)の優先事項を意識していますか？ 価値観は、自己の外側と内側の関係性でできるものです。価値観の優先事項が不明の場合、学校行事を始め、体験できることは、好き嫌いを言わず、全力でやってみる姿勢が重要です。

学校の活動の中には、好まない内容のものもあるでしょう。しかし、やってみると、意外と面白かった、大切だったと思うこともあるかもしれません。生徒にとって未知のことで、ついやってしまうこと、意外と面白かったことを発見する機会を学校は提供したいのです。

昔に比べ現代の娯楽は、受動的なものも多くあります。能動的な活動なしでも楽しんで満足すると、ついやってしまうことはなかなか見つかりません。進路に悩む人ほど、何に対しても、能動的に(全力で)やってみる姿勢が必要です。

もう 1 つ、国公立大学希望者で感じるのですが、苦しいことがあっても何かを学びたくて進学を希望していますか？ 学びよりも、国立大学に入学したいとだけ考えて、入試の得点次第では判定の高い学部や学科に変えることを、しかたがないと考えていませんか？ 私自身が進路相談で生徒によく話していたのは「大学変えても学科(学部)、つまり学びたいことを変えるな」でした。



大学での学びは、始めは教養として広い分野からの選択ですが、最終的には専門分野に特化します。学びたいことがある人にとっては天国のような環境です。一方、大学生になりたいだけの人にとっては、専門的内容は地獄かもしれません。大学での学びは、気の持ちようで正反対の様相を呈します。進路を考えると、何を学びたいのか、はっきりさせるのが望ましいです。学びたいことは無関係に判定の良い学部・学科に飛びつくことは、ついやってしまうことから遠ざかっています。

成績や実績に自信のある人は、大学の先生の研究分野までチェックするとよいでしょう。高校と違い、同じ名称の学部でも研究内容には違いがあります。発展的な進路研究のあり方です。

ヒツジは欠点を必死で隠す努力をする。

ライオンは欠点を受容している。

受験、こと国立大学を受験するならば、苦手教科の失点を最小限に抑え込まねばなりません。苦手教科の勉強はやる気が出ないとの言い訳は、自分の手で入学の門を閉ざすことに他なりません。

多くの人が苦手科目を持っています。得点としては伸び切らなくても“懸命に”学習を続けていますか？ 欠点から目を背けず、苦しくとも前進する努力を怠らないならばライオンの生き方です。



欠点を受容する受験には、総合選抜型や私立大学などに多い得意分野で臨む方法もあります。深い専門性を持った、いわゆる尖った人材への理解も広がっています。弱点はあっても、ある分野では“誰から見ても”感心する知識・技能・思考力があるなら、欠点を受容しつつ、長所を活かす生き方の1つです。大学、専門学校に進学後、大きく成長する人にはこの傾向があります。

ヒツジは大学受験で燃え尽きた後に内定をもらってご臨終。

ライオンは社会に出てから燃えたぎる。

40年ほど前、鹿児島県のトップクラスの進学校

から九州大学に進んだ学生の留年率が高いことについて、鹿児島のNHKが特集番組を放送しました。生徒は、朝補習、放課後補習、大量の宿題で燃え尽き、大学で勉強したいという意欲のないまま進学したことが原因ではないかと指摘していました。受験戦争といわれた時代、何を学びたいのか深く考えず、テストの点取りのみに習熟した生徒と、入学させればよいという教員による悪しき相互作用がこのような結果を招いたと考えてなりません。

大学・専門学校への進学後、将来的には就職してから燃えたぎるには「ついやってしまう」ことに目を向けるのが大切です。

ヒツジは努力がすぐに報われると考えている。

ライオンは努力がつながっていると考えている。

テストで一夜漬けはダメだから、三日“も”頑張ったと言い訳をしていませんか？ そして納得できる成績が取れず落ち込むなら、まさに努力がすぐに報われると勘違いしたヒツジです。

それでもその後、反省しテストで間違えた問題を見て、自分の欠落に目を向けるなら、未来へつながる努力にはなります。ただ、同じことを繰り返すなら、ライオンのふりをしたいだけのヒツジです。次は、テスト前にやるべき対策を十分に済ませたと思える状態にならねばなりません。

ヒツジは睡眠時間を削っても頑張る。

ライオンは睡眠時間をすべてに優先する。

個人的に生徒に最も強調していることが、この本にも書かれていました。睡眠が記憶の定着、作業能率の向上に重要なことは広く知られています。さらに、マウスについてですが、睡眠が記憶の定着にとどまらず、未来の記憶にも影響があるという研究が4月28日、富山大学・井ノ口馨教授により発表されました。

ヒトにも同様のことがあるなら、未来の学校では、過去の経験を財産に変え、未来に備えるためにも、しっかりと睡眠をとるようにと、生徒に助言しているかもしれません。

巷には読みやすい人生論の本が多くあります。悩んだ時には、手に取って、先人の知恵から学びませんか？